第1回 鎌倉市廃棄物減量化及び資源化推進審議会 議事録（概要）

日時 平成23年10月4日（火）14時～16時

場所 鎌倉市役所 全員協議会室

出席 飯野委員、大道委員、橋詰委員、深野委員、保坂委員、奴田委員、波多辺委員、牧田委員

<事務局>

松尾市長

環境部 相澤部長、小池次長、松永次長

資源循環課 古屋課長、谷川課長代理、瀬谷課長補佐、佐藤担当係長、小田切副主査、安倍主事

環境施設課 小柳出課長

名越クリーンセンター 宮村所長、奥田担当係長

今泉クリーンセンター 川村所長

笛田リサイクルセンター 遠藤所長（深沢クリーンセンター所長兼務）

笛田リサイクルセンター 樽木担当係長

ごみ減量・資源化推進担当 松井担当主査

会議の前に松尾市長から委員への委嘱状の交付がなされました。

また、会長には深野委員、副会長には亀山委員が選任された後、松尾市長から深野会長に諮問を行いました。

議題1 会議の進め方

審議会の中で、会議及び会議録について原則公開することとなりました。

事務局から、審議会の所掌事務及び審議事項、今後のスケジュールについて説明を行いました。

議題2 ごみ処理基本計画（中間見直し）の進行管理について

事務局から、ごみ処理基本計画（中間見直し）及び平成23年度アクションプログラムと現段階の実績について説明を行いました。

波多辺委員： 諮問事項が4項目あり、スケジュールでは、平成24年12月に4項目全て答申とのことです。審議会委員の任期は2年間ありますので、平成25年10月に答申ではないのでしょうか。家庭ごみの有料化が平成26年全市実施とのことですが、その関係で全ての項目も平成24年12月に答申を行わなければいけないのでしょうか。

古屋課長： 平成25年の10月から戸別収集の全市実施を目指しています。そのために、条例化、予算の確保等の手続きがあり、平成24年12月の答申をいただきたいと考えています。家庭系ごみの有料化、事業系手数料についても関係があるため、合わせて答申をいただきたいと考えています。

相澤部長： 平成25年中に事業を実施するためには、平成25年の2月に予算の議決が必要となり、その前に予算の前提となる制度、条例を認めていただかなければいけません。まず、戸別収集は平成25年10月に実施するため、平成24年12月までに答申をいただく必要があります。有料化については、平成26年に実施するため、答申はその先でも良いのではという考えもありますが、戸別収集と有料化は同じ条例の中で約束し、担保をとった方が良いのではないかと考えています。また、家庭系だけではなく、事業系手数料についても、同時に考えていかないと市民の理解を得るのが難しいと思われます。そのため、家庭系の戸別収集、有料化、事業系の事務手数料の改定については3つセットで答申をいただきたいと思います。答申の後、平成25年10月までの間については、ごみ処理基本計画の進行管理について審議をお願いする予定です。

波多辺委員： 戸別収集、有料化、事業系の手数料のそれぞれが大きな課題であるため、平成24年12月までと急ぐのではなく、平成25年10月までひとつひとつ丁寧に議論していく必要があるのではないかと思います。特に事業系については、8,000トン減らさなければいけません。ごみの減量に関して協力をお願いするとともに、事業系処理手数料をキログラム当たり13円から上げるというのは、事業者にとってダブルパンチとなります。事務局の説明は理解できますが、丁寧に審議していく必要があると思います。

深野会長： 予算と条例の関係でスケジュールは限られているとのことですが、十分な議論が必要

であるとの意見をいただきました。

奴田委員： アクションプログラムのアクションについて説明がありましたが、そもそも鎌倉市はゼロ・ウェイストを目指しているのではないのでしょうか。例えば、紙おむつを資源化するというアクションではなく、使い捨てではない布おむつを普及するなどのアクションがあってもいいのではないのでしょうか。

古屋課長： アクションプログラムには、具体的に減量の数値化ができるものを主に記載しています。もちろん、ごみの減量には、3Rのうちのリデュースが重要であり、3Rの啓発として環境教育など実施していく必要があると考えています。

波多辺委員： 資料3の9ページに、飲食業等中小規模事業所における生ごみ資源化の促進で6,240トンの減量とありますが、これは事業者が分別し、収集運搬業者をお願いして、積替施設に運び、市に手数料を払うこととなっています。これは中小規模事業者が生ごみ6,240トンを減量しなければいけないということではなく、市が業者に資源化を委託するので、その分は焼却しなくてよいと理解してよろしいですね。

小池次長： そのとおりです。これまで事業系生ごみは焼却していましたが、今回の計画の中で、生ごみを資源化することで焼却量を削減する計画です。市は、市外にあるバイオガス化や肥料化などの生ごみ資源化施設に委託する計画を考えていますが、そのような手法で行うかは現在、収集運搬許可業者とともに検討中です。

波多辺委員： 計画の中で、飲食業等中小規模事業所の厨芥類排出量は、事業所全体の厨芥類排出量の70%とのことですが、この根拠を教えてください。また、「事業者は生ごみを分別」とありますが、その分別の内容をどの程度事業者が負担が生じるのでしょうか。

小池次長： 70%というのは、行政が提示した数字ですが、以前のバイオ施設を建設する計画の時に数値を合わせました。

分別については、何を生ごみとして分別するのかという詳細をまだ決めておりません。しかしながら、資源化業者には、実際事業系生ごみの中身を確認していただいており、資源化業者からは、この程度の内容であれば資源化できるとの返事ももらっています。

波多辺委員： 事業者には、分別の方法だけではなく、分別するための容器の確保などが課題になると思います。この事業では6,240トン減量を予定しているということは、このごみ処理基本計画が成功するかどうかは、この事業の成功にかかっていると言えるのではないのでしょうか。是非、実施可能な方法を検討してください。

橋詰委員： 布団、畳、木質廃材などの資源化施設は市外にあるのでしょうか。

古屋課長： 布団、畳に関しては、千葉県に資源化業者があり、熱回収しているとのこと。木質廃材の資源化施設は市外に数か所あり、ボードの原料や燃料にしています。竹、笹、シュロについては、既に植木剪定枝などを堆肥化している資源化施設において、取扱いが可能になったので資源化することとしました。紙おむつについては、町田市の病院に導入事例がありますが、市の施設や市内の民間施設などに機械を導入できないかを検討しているところです。

橋詰委員： 市外で資源化する品目については、この計画で新たに実施するというのでしょうか。

古屋課長： 布団、畳については新たに実施する予定です。木質廃材については、家庭系の木製家具などを既に資源化していますが、この計画で示す木質廃材は、小さな工務店等から出されるものです。これは今まで焼却していましたが、資源化しようと考えています。

橋詰委員： 市外で処理することとなると、先方の自治体と協議することということでしょうか。

古屋課長： その通りです。

牧田委員： 家庭系ごみの戸別収集は、高齢の独居世帯にとって便利になるように思われますが、高齢者にとっては、分別すること自体が大変です。自治会、町内会、若しくはごみ行動チームが行えばいいのかわかりませんが、分別について、今後更に高齢者に対するケアを考えていかないといけないと思います。

古屋課長： 鎌倉市には、現在、ごみ出しが困難な方などに対して戸別収集を行う「声かけふれあい収集」という制度がありますが、対象者は要介護の方など限定しています。市民の間で、分別の手伝いを行うシステムがあるかは、現状で把握していませんが、今後手伝いが必要な方に何ができるか考えていきたいと思っています。

深野会長： 鎌倉市は、分別の協力率が高いですが、今後更に分別が負担になることのないように検討していく必要があります。他都市の事例などがあれば提供していきたいと思っています。

波多辺委員： 焼却量の減量は、平成 27 年度までに最低でも 1 万トン減らさなくてはならないと
のことですが、中小事業所の生ごみ資源化は平成 27 年度からで間に合うのでしょうか。
小池次長： 中小事業所の生ごみ資源化は、積替施設の場所を探さなくてははいけません。現在、全
庁的に候補地を探していますが、決定には近隣住民との調整が必要となるため、27 年度
実施としています。27 年度より前に実施できるようであれば、準備が整い次第実施して
いきたいと思ひます。

議題 3 家庭ごみの戸別収集について

事務局から、以下の項目について説明を行いました。

- (1) 本市のごみ処理基本計画における戸別収集と有料化の考え方
- (2) 全国の状況
- (3) 近隣市の状況
- (4) 本市で戸別収集を実施するときのイメージ

飯野委員： 資料 6-3 の西東京市の事業系ごみの手数料は、52 円から 53 円位ではないか、確認
してください。資料 6-3 では、戸別収集有料化と減量効果の関係だけではなく、戸別
有料化とリサイクル率との関係を教えてください。資料 6-4-①に関連して、西東京市
では、マンションは 1 箇所の収集で各戸ごとにフックでかけて分けているという事例が
ありますので、こうした事例を紹介してください。戸別収集有料化については、東京都、
神奈川県他市事例の金額を教えてください。事業系、家庭系の排出原単位も記載して
ください。

古屋課長： 今のご要望については、次回以降に情報提供していきたいと思ひます。

橋詰委員： 藤沢市では、戸別収集を行うことで燃費が良くなったと聞いています。そのようなデ
ータがあれば教えてください。

大道委員： 参考として、藤沢市の戸別収集モデル地区でのごみの出し方を教えてください。

瀬谷課長補佐： 藤沢市でモデル地区を実施したときは、本格実施の場合とは違い、指定袋は使用
しなかったと聞いています。これは、指定袋を使用した場合に相当の経費が必要である
からのようです。ただ、カラス被害対策として、黄色の指定袋が有効であるかを試験す
るため、モデル地区のうちの 200 世帯だけ黄色の指定袋を使用していただいたと聞いて
います。鎌倉市のモデル地区の場合では、指定袋を使用すると経費がかかるため、ど
のようにするか検討中です。

保坂委員： 戸別収集については、全品目に近い形で実施してはどうでしょうか。ビン・カンのコ
ンテナ収集は便利なためステーション方式とするなど、一部例外があっても良いと思
われます。

深野会長： 戸別収集の品目について、事務局の案をお聞きしたいと思ひます。

古屋課長： 資料 6-4-①に戸別収集する場合の品目の案を示しています。基本計画では、燃やす
ごみと不燃ごみを戸別収集することを前提で記載しています。燃やすごみは、カラス被
害や衛生面等を考慮し、午前中に収集を終了したいと考えています。そうすると午後
の収集時間が空くため、容器包装プラスチックと不燃ごみ・危険有害ごみをセットに
して収集したいと考えています。

深野会長： この資料では、週 2 回の収集の例としてみればよいのでしょうか。

古屋課長： はい。燃やすごみは月木、火金の週 2 回の収集であるため、このように記載しました。

深野会長： 戸別収集の品目は、全て有料化するのでしょうか。

古屋課長： 有料化の品目についても審議していただきたいと思ひます。

深野会長： 他都市では、資源物は無料という都市もあると思うので、今後どうしていくか考
えていきたいと思ひます。収集困難地域が 5～6 %あるとの話があったと思ひますが、
その地域をどのようにしていくかも大きな課題となると思ひます。

牧田委員： 先程の説明では、門の内側にごみを出すとのことでしたが、収集員が門の中に入る
のでしょうか。

瀬谷課長補佐： 藤沢市では、門の内側というよりは、門と公道との境で、敷地内ぎりぎりの所
に出していただいているようです。

牧田委員： 鎌倉には、様々なタイプの門があるように思われます。また、日中に人がいない家庭
もあると思ひますので、門のぎりぎりのところというのをどのようにするか、袋の大き
さにもよって場所が決まると思ひますので、それぞれのケースで検証していく必要があ

るのではないのでしょうか。

深野会長： 収集場所については各戸によって千差万別のようなので、今後議論を深めていきたいと思います。

議題4 その他

事務局から、放射性物質に関する廃棄物行政の状況について報告しました。

保坂委員： 堆肥の放射性物質濃度について、市民から問合せはありますか。

古屋課長： 放射性物質濃度の問合せよりは、堆肥をいつから配布再開するのかという問合せが数件ありました。

第2回、第3回の日程については、各委員の日程調整後、通知することとなりました。